

家事などの援助が必要な高齢者等を支援

問合先／長寿介護課 ☎42-8728 FAX42-8955
kaigo@city.kasai.lg.jp

市内には、ちょっとした手助けがあれば、住み慣れた地域で安心して暮らせる高齢者が多くおられます。

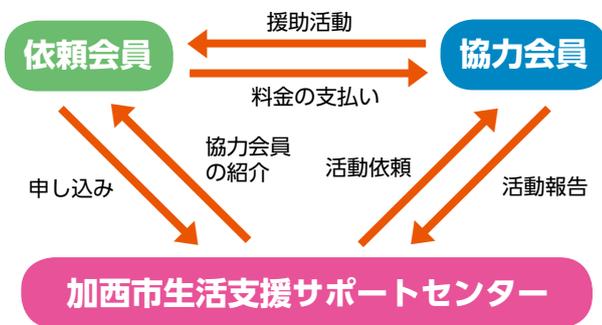
そこで、4月から、加西市社会福祉協議会に「加西市生活支援サポートセンター」を開設し、家事などの援助が必要な高齢者等を支援します。

■生活支援サポートセンターとは

家事等の援助を依頼したい人と援助活動に協力していただける方のお互いが会員となり、ボランティアを通して助け合う組織です。

■活動のしくみ

センターのアドバイザーが、活動内容に合わせて依頼会員と協力会員の調整を行い、活動の打ち合わせを行ってから援助を受けられる仕組みになっています。



■会員の種類と条件

依頼会員／加西市在住の65歳以上の方または40～65歳の要介護認定を受けている方で、日常生活に援助が必要な方

協力会員／依頼会員に対して家事等の援助に協力していただける方(生活支援サポーター養成講座の受講が必要。平成29年度は9月開講予定)

■依頼会員の募集

援助内容／食事の準備や洗濯等の家事援助、簡易な掃除、買い物代行、通院や買い物等の付き添い、ゴミ出し、話し相手や見守り など

利用料金／30分あたり250円

■協力会員の募集

生活支援サポーター事業説明会及び協力会員登録会に参加してください。

日時／4月11日(火) 14:00～15:30

場所／健康福祉会館 2階研修室 1

対象／平成28年度生活支援サポーター養成講座修了者、社会福祉士、介護福祉士、介護職員初任者研修修了者(ヘルパー資格相当)

申込・問合先／加西市生活支援サポートセンター(社会福祉協議会内) ☎43-1281

認知症の疑いのある方を早期にサポート

問合先／長寿介護課 ☎42-8728 FAX42-8955
kaigo@city.kasai.lg.jp

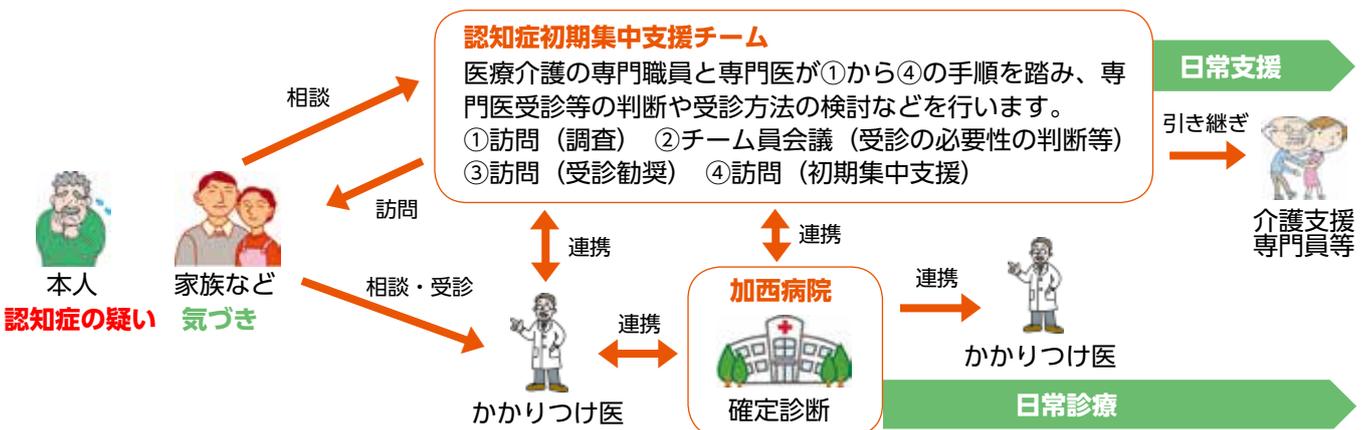
最近、物忘れが多く、「同じことを何回も聞く」「同じものを毎回たくさん購入する」「人と約束していたことをたびたび忘れる」「お金の支払いがうまくできない」など、生活に困っていたり、家族や地域の方で心配に感じたりする方はおられません。このような症状は、認知症の疑いがあります。



そこで、早期に専門医の検査を受け、必要なサービスを受けていただけるよう、認知症初期集中支援チームの医療と介護の専門職員が訪問し、サポート医と相談しながら、生活での困り事が改善できるようにお手伝いします。日々の生活やお仕事、また、地域での見守りの中で「いつもと違う」「何かおかしい」と感じた場合は、お気軽にご相談ください。

■相談先／認知症初期集中支援チーム(加西市地域包括支援センター内) ☎42-7522

■認知症初期集中支援チームの活動イメージ図



看取りを支える訪問看護

■ときどき入院、ほぼ在宅

高齢社会に関する意識調査（平成 28 年：厚生労働省）によると、年をとってから生活したい場所について、最も多い回答は「自宅」が 72.2%、高齢期に希望する場所で暮らすために必要なことについては、「医療機関が近くにあること」が 54.3%、「介護サービスが利用できること」が 38.2%となっています。年をとっても自宅で暮らし続けたい、そのためには身近なところで医療・介護サービスを受けられる環境が必要だと認識されているという結果が出ています。

病状が悪化した時は近くの病院に入院できる、治療が終われば生活していた場所に戻り療養できる。「ときどき入院、ほぼ在宅」に応えるべく医療、介護の多職種が在宅療養体制づくりに取り組んでいます。

■がんでも・・・認知症でも・・・一人暮らしでも・・・

人口の 4 人に 1 人が 65 歳以上という超高齢社会を迎え、在宅療養をされている人は重度化し、一人暮らしや高齢者世帯、老老介護、認認介護など介護をとりまく環境も複雑化しています。

難病やがん、障がい、認知症であっても、在宅医療や在宅介護を利用しながら、住み慣れた場所で療養を続けている人がたくさんおられます。訪問看護は、医療者としての視点と、生活全般を支える視点の両面から、在宅療養とその先にある看取りを支援します。

■暮らしの中で最期を迎える

私は訪問看護師として、住み慣れた自宅で最期まで自分らしく生きる人にたくさん出会いました。

大勢の子どもや孫に見守られながら、大好きだった訪問入浴サービスを受けて旅立った A さん。「一本吸ってから死にたい」と退院希望し、大好きだったタバコを

一本吸ってから息を引きとった B さん。「生きることをあきらめない姿を子どもたちに見せる」と、最期まで治療継続を望んだ C さん。「天国行きを邪魔しないで」と、一切の治療を希望しなかった D さん。その人や家族にとって最期の大切な時間に、専門職としてだけでなく、人として心を込めて立ち会うことを心掛けてきました。

「本人、家族、周囲の人、それぞれにとっていい看取り」とは、療養場所で最期まで人として大切にされていると感じられるかどうかだと思います。在宅医療、在宅介護と連携し、暮らしの中にある最期を穏やかなものとするのが、訪問看護の役割です。

■苦痛のない、穏やかな最期に、訪問看護ができること

在宅療養において、身体的な苦痛なく過ごせるように、入院先や通院中の病院の主治医、訪問診療を行う在宅主治医、医療機関の看護師や薬剤師などと連携し、苦痛症状を和らげる支援を行います。

在宅主治医や訪問看護師は、24 時間 365 日連絡が取れる体制を整えています。看取りの際は、ご家族と一緒に体をきれいにし、旅立ちの準備をお手伝いします。そして、訪問看護師ができることは、少しでも心地良いと感じるケアを繰り返し行うことです。丁寧に体を拭き、洗髪や足浴を行うことは、その人を大切な人として扱うということだと考えます。

■地域で支える「aging in place」

全ての人に老いや死は訪れます。「住み慣れた地域で、その人らしく最期まで」の実現には、医療や介護などの専門職だけでなく、ご家族やご近所さん、自治会やボランティア、NPO 団体など地域の力が必要です。自分や家族だけで抱え込まずに、訪問看護にいつでもご相談ください。住み慣れたこの加西市で最期まで暮らしていただくように、地域全体で支え合っていきましょう。

（訪問看護認定看護師 山下千鶴）

知的障がい者がボランティア活動を通じて高齢者をサポート

加西市が地域活動支援センターとして委託する「NPO 法人 SKY ツールカラーズ加西」が、大和証券福祉財団によるボランティア活動助成団体に決定しました。カラーズは主に障がい者のための福祉施設で、同施設を利用する障がい者とスタッフが、高齢者宅へのお弁当配達ボランティアを毎週行うことが社会的意義の高い取り組みとして評価されました。助成を受けたことにより、活動の幅を広げ、あらゆる障がい者が安心して能力を発揮できる環境を整えていきます。また、お年寄りの暮らしのサポートをはじめ、障がい者の概念にとらわれないメソッド（方法）で、地域に福祉を提供していきます。地域の皆さん、どなたでも見学に来てください。

問合せ先／NPO 法人 SKY ツールカラーズ加西（北条町古坂）☎ 33-9885



高齢者宅へお弁当を配達する障がい者とスタッフら